

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4311010997		
法人名	医療法人牧念人会		
事業所名	グループホームサンテ		
所在地	熊本県 菊池市深川400番地		
自己評価作成日	令和3年 11 月 1日	評価結果市町村報告日	令和4年 1月20日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 九州評価機構
所在地	熊本市中央区神水2丁目5番22号
訪問調査日	令和3年12月8日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ゆったりとした空間の中で生活を支援を受ける中で 一人一人の思いを大切にし 家事などできることを 職員と一緒に残り残存機能を 生かし 役割 生きがい楽しみを持った生活を送っていただくように心がけている
毎食後の口腔ケア 食事前の嚥下体操にも力をいれている。体操やレク季節行事などを通じて 体力の維持 楽しみ を感じてもらっている。
診療所の2階にあり 常勤の看護師も配置され 医療連携もスムーズである。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

地域に根差した診療所の2階に位置し、医療連携もできており安心して過ごせる事業所です。入居者の高齢化により少しずつ「出来る事」が少なくなっている状況の中、日々の生活の中にもドライブや芋ほり、柿ちぎり等を取り入れ、充実と楽しみを図られていました。管理者交代から3年。これまで蓄積されたケアに加え、新たな試みでより入居者の生活向上を目指した取組が見られる事業所でした。訪問時は管理者の思いやこれからを考える姿勢を感じ、今後の取組みの実現が楽しみな事業所です。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は職員が目につくように廊下に貼り共有している。職員会議でもまた運営推進会議の際には読み上げ確認している	設立以来の理念は職員会議で話す機会を持ち、共有を図っている。運営推進会議の表紙には毎回理念が記載されており、地域・行政等会議の参加者にもお知らせしている。	理念を事業所のシンボルにするだけでなく、グループホームとしての質の向上や支援の真ん中で職員が共有するために会議で唱和すること、更なる実践につなげるために年間の研修に取り組みられることを期待します。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ前までは地域の公民館で老人会の体操やゲームなどにも入所者と職員で参加して交流していたが コロナ感染の可能性高い為交流は出来ていない。	以前から入居者と職員で参加していた公民館活動も、昨年からの感染症予防のため開催が無く、日頃の交流が見られない。公民館の造りからも入居者の参加が難しくなっているのが現状である。職員は地域での研修「地域の見守り隊」も受講している。	コロナ禍で日常的な交流が難しい状況が聞かれました。この状況が収束した後は、運営推進会議等を利用し、事業所だけでなく入居者が地域と繋がるような取組みの工夫に期待します。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症について勉強してきたことを運営推進会議の際に内容を報告したり 地区のかたより質問を受けて 答えたりしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	行政 地区委員 家族 職員の参加あり ホームの状況 活動報告し意見交換している。災害時に供え地域消防団との関係づくりをすることの助言あり 連絡し 顔なじみの関係づくりができた。	年6回の開催は場所や日程等感染症予防の対処をし、出来るだけ実施した。地域役員や消防団との関係作りの場ともなっている。運営推進会議の参加者は身体拘束適正委員も兼ねている。	地域への声掛けも運営推進会議を利用して行われている様子が聞かれました。事業所の取組みや入居者の生活の様子、認知症の啓発等、今後も継続した活動の場に活かしていられることに期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村担当者運営推進会議へ参加していただき顔なじみの関係をつくり相談している。今回のコロナワクチン接種の際にもわからないこと等たずね丁寧に対応してもらった。	運営推進会議には市職員の参加もあり、会議開催が難しい時期には書類提出にて事業所の取組みを伝えている。日頃の業務でも報告・相談等を細かに行うことで協力関係の構築に取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束について勉強会をしており共有している。入職者にも勉強しても羅う時間をもうけている。居室からの出入りは鍵もなく自由 夜間のみ建物内への入り口には施錠している。	職員研修にて身体拘束について具体的にどのような事例がそれにあたるのか、学び共有している。日頃の業務の中で言葉遣い等気になることがある際は都度伝えている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	行政からの研修に参加し、毎年内部研修に組み入れ学んでいる。 どのようなものが虐待となるのか職員の関わり方などを再認識している。		

グループホーム サンテ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	年間の内部研修として計画し 知識を深めている。現状として対象となる人はいない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所前に契約書に沿って説明 また改定時にもきちんと説明し理解を得、署名していただいている。疑問点 不安なこと等も たずね説明している		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	2か月に一度の運営推進会議時家族からも意見をいただき 答えたり 家族の来訪時や電話時には意見伺う機会を設けている。伺った意見は必要時には職員間 また法人で検討している。	面会や運営推進会議、家族への電話連絡時を機会に家族の意見を得ている。得た意見は必要により事業所・法人にて検討し運営に反映している。運営推進会議の案内や毎月の便りも家族へ送付し、来所の機会作りに繋げている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月職員会議を行皆の意見を伺いともに検討し意見交換している。その中で出た議案に関しては必要と感じたことに関して報告し管理者会議で対応検討している	毎月の職員会議、随時のケア会議等、職員で集まる機会を多く作っている。管理者もケアにあたってため、職員は日常的に管理者へ意見や提案を伝えることができる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	希望者に関しては資格取得の為シフト調整 研修費用の一部支給 取得後に応じた手当の支給 特別休暇や夏季休暇 バースデ位休暇など設け取得している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	認知症のケアについて 年内研修に計画し実施し外部研修にもオンラインではあるが希望者をつのり参加してもらっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	感染予防の視点から集まったの研修はほとんどなく、電話でのやりとり情報交換に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	家族の同意を得て意向確認し担当関係者との情報交換し入所前には訪問し面談し会話をもち希望などきき 関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前には家族との面談し 要望や意向をきき、おたずねなどには対応し、関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人の状態をアセスメントし自立支援に向け援助方法を検討し支援している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の暮らしの中でそれぞれの能力に応じ食器洗いおやつ時の簡単な手伝い等掃除洗濯干したたみ催し開催時の飾りつけやものづくり等協力して行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ禍の中直接の面会ができない為オンライン面会を実施している。電話連絡時には状況報告し毎月初めにはサンテ便りはじめお知らせ等郵送し 日頃の様子を報告している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍の中 買い物や外出などは控えている。少ない人数だがドライブ車窓などは実施している。散髪には以前からの訪問美容師が感染対策をきちんととり 3~4か月に1度みえている。	感染症対策により、外出や来所による馴染みの関係継続支援は難しい状況であった。事業所で「今できること」として季節の花見ドライブや芋ほり等、馴染みの場所訪問や体験を支援した。訪問美容の来訪も馴染みの関係であり、入居者の変化も見えてもらえている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入所者の性格や相性を考慮し食堂や娯楽室での席位置を考え 会話を多くもたれている、洗濯たたみをする際には多い方の手伝いをしたり助け合ったりしている。		

グループホーム サンテ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	病状や身体状態の変化から入院や他の施設への入所となったときも主治医や担当者(相談者)家族との連携をはかり安心して移行できる体制を築いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人家族と面談し 希望や意向を確認し状態などアセスメントしている。意思表示が困難な利用者は日頃の会話や具体的な提案にて確認実施している	現状、思いを表出できる入居者は少なくなってきており、日頃の職員の寄り添いから感情や思いを汲み取っている。家族の思いも大切にし、把握した思い等は必要に応じ介護計画にも取り入れている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族よりまた担当のケアマネサービス事業所からこれまでの暮らし 状況など状態把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入所者のこれまでの生活や趣味 家庭環境などの状況を得ている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員を入所者の担当制としており ケアマネと情報の共有をはかり ケアマネ中心に介護計画をたて、家族 スタッフ参加(本人はコロナ禍にて参加せず)にて担当者会議を行い家族の同意を得てしている。	入居者それぞれ職員の担当制となっており、毎月の職員会議、随時のケース会議において入居者の状況は職員間で共有している。入居者や家族の意向も含め、介護計画作成担当者により作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の様子は個人記録またバイタル測定表記載し 日勤⇄夜勤者と申し送りにて報告しあっている。必要時にはケース会議を開催し対策を検討している、出席できないときには議事録を確認してもらっている。連絡帳の活用もしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	かかりつけ医の受診には職員対応している。専門医の診察が必要な時には家族の意向を確認しその時に応じた対応をしている。		

グループホーム サンテ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	月2回の運営推進会議のさいには区長 民生員 老人会長の参加をうながし参加してもらい 意見など頂いている。現在はコロナ禍でもあり地域での行事には参加できていない。訪問美容師にて散髪は継続している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所前にかかりつけ医の選択について説明し 希望をきき家族の希望に合うようにしている。同じ法人に診療所があり、定期診察また変化時には相談出来ている、状態に応じて専門医の診察が必要な時には家族へ相談し 対応できている。	入居以前からのかかりつけ医の継続した受診を基本とするが、現状、全ての入居者が同じ法人の診療所をかかりつけ医としている。診療所には医師の常駐があり、入居者の様子もよく伝えることができる。医師の判断により他科を受診し、早い診断に繋がった例もあり家族の安心も大きい。通院には基本的に家族へ依頼しているが、急な対応や状況により職員が同行する。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常勤として看護師配置し介護職とともに状態観察を行い状態に応じて看護師へ報告 更に必要時には主治医へ報告し迅速に対応している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には 病院へ情報提供し 入院中も訪問し 病院関係者へ報告相談し スムースに連携が図れるようにしている 入院必要だったが、認知症にて 環境が変わることで不穏なこと予測され通院をしばらくしたこともある 臨機応変に対応している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時経口的に食事摂取できなくなったり 医療従事度が高くなった時は入所継続が困難との説明をしている。そのような状態になったときには 家族 または主治医と話し合いを持ち関係機関との連携を図ることにしている	入居時に重度化や終末期に向けた事業所の方針を説明し同意を得ている。これまでは医療が必要とされた場合は医療機関へ移る例が多かったが、家族・主治医等関係機関と連携し、看取りを考えた体制が整ったところである。看取りの事例もあり、職員研修でも取り入れた。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時には管理者への連絡 対応不可の時には職員間で連絡網があるのでそれを通じて対応する。意識消失 又転倒などによる疼痛あるときには救急搬送することの職員が認識している		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災時の消防訓練実施している 年内に2回目の訓練予定。 地域の消防団の協力も必須と考え 顔なじみの関係 をつくり 協力体制をつくっている 備蓄品の確認をしており 確保している。	避難訓練では、職員が入居者の役をし模擬訓練を行った。防火管理者により、定期的にかセットコンロやガスボンベ、食料品等備蓄品の確認を行っている。夜間等、職員が少ない時の入居者の動き等も職員間で共有している。	地域との協力も考え、地元消防団とも連絡を取り合い、協力を依頼していることが確認できました。これからの取組として、入居者も参加し、実際の状況を想定した訓練も必要ではないでしょうか。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員個人情報や守秘義務について研修をする機会をもうけ、尊重して関わりをもつようにしている。居室にはフルネームを明記していたが下の名前を書くようにした。送り時には居室番号で申し送りしている	職員入職時の契約書に入居者の情報や守秘義務についても記載している。職務時間外に仕事の話をしないう随時職員へ伝えている。入居者への対応は職員会議や研修でも行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	どうしたのか本人の思いや希望をたずねたり意向医師を確認するようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の大まかな時間設定はあるが入所者一人一人のペースに合わせて過ごしてもらっている。「寝たい」等の訴えがあるときには長くならない程度に横になるなど個別に対応している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洋服は本人に聞き、表情みながら季節に応じた衣類を着てもらっている。かがみをみてもらい整髪整容の声かけ 介助している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立、担当職員が季節感に配慮しながら立てている。誕生会や行事食も特別メニューで対応。皆で作れるお好み焼き、焼きそばと一緒に作ることもしている。限られてはいるが食器洗い等も職員と一緒にしている。	食事担当職員の手作り、配食等を組合せて提供している。配膳・片づけは職員が行うが、出来る範囲で入居者の関わりもある。朝食は野菜たっぷり味噌汁が喜ばれている。	年齢や介護度が高くなったこともあり、食事作り等への関わりが難しくなってきた状況が聞かれました。食事やおやつ時間は介助も必要と思いますが、職員も共に時間を過ごすことでゆったりと楽しみな時間にもなるのではないのでしょうか。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量 水分摂取記録をもとに1日管理している。食事のとり方がわからないかた 途中でやめる方に関しては声かけ時に介助して栄養バランスに配慮している。水分が取れない方はお茶ゼリーなども準備し 支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後きちんと口腔ケアしている 必要な方には訪問歯科診療を受け、状態見て助言いただきケアしている。義歯に関しては夜間ポリドント使用し最近予防に努めている。		

グループホーム サンテ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄記録表を活用し 個人個人の時間 パタンを把握し 日中はトイレでの排泄を実施している。	排泄記録表の共有により、職員から入居者それぞれの時間を考え声掛けしトイレへ誘導している。昼間は出来るだけトイレでの排泄を支援している。夜間はオムツやリハパン等、個別に合わせて対応を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便の堅さや量を毎日記録している。少なくとも3日に1回は排便があるようにコントロールしている 繊維質の多い食材を取り入れたり ヨーグルト牛乳を習慣づけている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴は2/週入るようにしている。拒否あるときには無理強ひせず時間見て声掛け誘導実施している。 昨年末に浴室の改修工事があり 環境的にも家庭的な浴室となった。	週2回の入浴を基本としている。殆どの入居者が介助を必要とするが、出来るだけ過度な手出しをせず、出来るかも大切にしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人の状態または意向を確認し休みたいときには居室で横になったりソファでくつろいだりされている。 就寝時にはパジャマに着替えている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方内容は常時確認できるようにしている。 変化時には申し送り簿に記載しかくにん皆でできるようにしていく。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の状態に合わせて洗濯干しやたたみ調理前の準備 掃除などの手伝い 近所の散歩など 好きな活動 好きな動画の視聴など取り入れている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍であり外出は控えている。ドライブ車の 中から花を見るなど 3~4回は実施した。	ショッピングモールやレストラン等、人込みへの外出は難しい状況であった。職員からの声もあり、桜やナデシコ等季節の花見ドライブに出向いた。今年度は行事も充実させ、人との接触を避けた外出を計画した。	

グループホーム サンテ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金は入所者も持っていない、家族より預かり金として預かり個々の必要と思える物の購入に関しては家族へ確認しきちんと報告している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	直接自分から電話される方はいない。オンライン面会を実施している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の場はすっきりし 動きやすい空間にしている 季節感のある毎月 職員手作りのカレンダーを貼っている。 娯楽室は広さ 灯り 車通りもみえ ソファも設置されくつろぐ空間となっている。	以前は医療機関の入院施設であったこともあり、入居者が動きやすく、適度なプライバシーも確保された造りである。段差等にも対処されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間はオープンで自由に行き来出来る時どき職員だったり同じ入所者と話したり 好きなテレビ鑑賞している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際 使い慣れた家具や日用品等本人家族の希望に応じ 持ち込み利用。自分や家族の写真を飾ったりしている。居室からイチジクの花を見て実がなるのを楽しみにしている	居室は広く、使い慣れた家具や用品が持ち込まれており、家族の関わりが感じられる。職員見守りのもと居室を掃除する入居者の姿もあり、清掃も行き届いている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	車椅子利用の方も多くなり 移動が安全にできるようにソファやテーブルの位置を考えている。トイレには手すりをつけ不安なくできるように 洗面所食堂トイレなどは大きく表示しわかりやすくしている。		

2 目 標 達 成 計 画

事業所名 グループホームサンテ

作成日 令和4年 1月 20日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	40 48	業務に追われ入所者に対してゆとりが持てていない	ゆとりをもち入所者さんの気持ちを尊重した支援ができる	<ul style="list-style-type: none"> ・業務の見直しをする ・入所者の個々の目標を確認しそれに向けて共有し支援していく 	6か月
2	35	防火訓練はしているが他の災害を想定した訓練をしていない。職員のみで行っている	災害時の備え 実際想定し訓練の実施	<ul style="list-style-type: none"> ・地震水害の想定訓練の実施 ・机上訓練 または法人全体での体制の構築 ・入所者参加の訓練の実施 	12か月
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。